



平成 24 年 3 月 12 日

報道関係各位

ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」

国内選考会結果発表

フィルム部門、プリント部門でそれぞれファイナリスト 4 チームを選出。
ワークショップを経て、日本代表各 1 チームを決定。

社団法人 全日本シーエム放送連盟

社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：永田 圭司）は、国際的に通用する若手クリエイターの育成を目的として、ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会を実施しました。3 月 12 日に選考会を開催して慎重に審査した結果、フィルム部門に吉兼 啓介さん（株式会社博報堂）、大野 大樹さん（株式会社葵プロモーション）のチーム、六反 孝幸さん（株式会社パーティー）、竹林 亮さん（株式会社ハット）のチーム、野村 周平さん（株式会社 ADK アーツ）、石川 貴之さん（株式会社電通クリエイティブ X）のチーム、能星 沙智子さん（株式会社ジェイアール東海エージェンシー）、審良 聡太郎さん（株式会社博報堂）のチームの 4 チーム、プリント部門に大石 雄士さん、茗荷 恭平さん（株式会社電通）のチーム、佐藤 良祐さん、錦 祥子さん（株式会社クリエイターズグループ MAC）、高田 麦さん、竹村 優奈さん（株式会社電通）のチーム、鎌田 洋平さん（株式会社電通）、山田 杏里さん（株式会社電通テック）のチームの 4 チームがファイナリストとして選出されました。

例年、国内選考会では優勝チームを選出してカンヌに派遣しておりましたが、今年は人材の育成という観点から、それぞれ 4 チームをファイナリストとして選び、ワークショップ（第 2 次選考）に参加した上で、最優秀各 1 チームをカンヌに派遣することとしました。ワークショップはトップクリエイターが行います。

見事日本代表に選ばれたチームには、6 月にフランス・カンヌ市で開催される「カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル（通称：カンヌライオンズ）」の「ヤングクリエイティブ コンペティション」に参加し、世界各国代表の若手クリエイターとクリエイティブ・アイデアと表現技術を競うこととなります。ACC が派遣費用の一部を援助します。

当連盟国際部会は、海外の著名広告コンクール結果を紹介していくことで、常にわが国のクリエイターに新しくグローバルな情報を提供し、CM の質的向上に努めております。海外広告賞の中で、最も権威があると称されている「カンヌライオンズ」については、ACC は、現地視察ツアーのご案内、現地会場での ACC ラウンジ開設及び専用登録ブースの設置、フィルム部門審査員選考、そしてカンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」日本代表チーム選出・派遣といった活動を行っております。

2012 ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会は、フィルム部門が「廃棄物ゼロ」、プリント部門が「児童労働」をテーマに広告を制作していた



いただきました。英語によるオリエンテーション後、規定時間以内に作品を提出していただくという現地同様の方法で行い、その応募広告をカンヌライオンズ審査員経験者によって審査しました。本年はフィルム部門 92 チーム 184 人（昨年は 96 チーム 192 人）、プリント部門 126 チーム 252 人（昨年は 139 チーム 278 人）が参加、熱戦を繰り広げました。審査会は 3 月 12 日に行われ、その結果は当日午後 6 時 30 分より開催された発表会（セレブレーションパーティ）で発表しました。

実施要領と結果は別紙のとおりです。

この件に関するお問い合わせ先
(社) 全日本シーエム放送連盟 (ACC)
〒105-0004 東京都港区新橋 3-1-11 長友ランディックビル 5 階
電話 03-3500-3261 FAX 03-3500-3263
ホームページ <http://www.acc-cm.or.jp>
担当：古川 小原



**ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会
結果と実施要領**

<結果>ファイナリスト ※ワークショップを経て、日本代表各1チームを選出します。

【フィルム部門】

吉兼 啓介さん(所属会社 株式会社博報堂)、
大野 大樹さん(所属会社 株式会社葵プロモーション) のチーム

六反 孝幸さん(所属会社 株式会社パーティー)、
竹林 亮さん(所属会社 株式会社ハット) のチーム

野村 周平さん(所属会社 株式会社ADK アーツ)、
石川 貴之さん(所属会社 株式会社電通クリエイティブX) のチーム

能星 沙智子さん(所属会社 株式会社ジェイアール東海エージェンシー)、
審良 聡太郎さん(所属会社 株式会社博報堂) のチーム

【プリント部門】

大石 雄士さん、茗荷 恭平さん(所属会社 株式会社電通) のチーム

佐藤 良祐さん、錦 祥子さん(所属会社 株式会社クリエイターズグループMAC)

高田 麦さん、竹村 優奈さん(所属会社 株式会社電通) のチーム

鎌田 洋平さん(所属会社 株式会社電通)、
山田 杏里さん(所属会社 株式会社電通テック) のチーム

<スケジュール>

オリエンテーション	2月20日(月)	プリント部門/フィルム部門
作品提出	プリント部門	2月21日(火)
	フィルム部門	2月22日(水)
選考会	3月12日(月)	
セレブレーションパーティ	3月12日(月)	18:30~選考結果発表と講評、参加者懇親会

<オリエンテーション> 審査員が英語でオリエンテーションと課題の発表をしました。

<審査員>

鏡 明氏(電通) 大谷 義智(読売広告社) 河野 俊哉氏(博報堂DYメディアパートナーズ)
佐藤 カズー氏(TBWA\HAKUHODO) 塚田 由佳氏(電通)
溝口 俊哉氏(マッキンゼーエリクソン)



<課題>

【フィルム部門】

■ テーマ： 廃棄物ゼロ / Zero Waste

クライアント：「Fun for Zero Waste / FZW」は、日々の生活の中から、ひとりひとりがReduce. Reuse. Recycleに楽しく取り組むアイデアを提案し、廃棄物ゼロ / Zero Wasteを提唱する非営利団体です。

■ 提出物：TV-CM30 秒

■ テーマについて：

廃棄物ゼロ / Zero Wasteとは、資源の浪費、無駄をなくすという概念で使われています。つまり、出たごみを、埋立地や焼却炉で多額のお金をかけて処理するということではなく、ものをつくる段階、又はものを消費する段階からごみを出さないようにして、資源を浪費しないということと、環境汚染や環境破壊を引き起こさないという考え方です。

廃棄物ゼロ / Zero Wasteを実現するには、生産者（企業）の理解も大切ですが、生産者が提供する物を消費する私たち（生活者）にも、責任があります。

世界において人々の環境への意識は高まりつつあります。そして、何かを消費をするときに、ゴミを分別したり、ゴミを出ない工夫をしたりする人も増えてきています。しかし、Reduce. Reuse. Recycleを行おうとする時、その手間に戸惑ったり、めんどくさく感じてしまうことも事実です。

■ 目的

廃棄物ゼロ / Zero Wasteを実現するために、毎日の生活の中でReduce. Reuse. Recycleのいずれかを、楽しく、前向きにできるアイデアとともに伝え、視聴者に実行または、参加するよう促してください。

■ ターゲット

全ての生活者



【プリント部門】

■ テーマ：児童労働 / Child Labor

■ クライアント：「ACL / Against Child Labor」は、世界中の子ども達の人権を尊重し、彼らが希望をもって安心してくらす社会を実現するために、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む非営利団体です。

■ 提出物：雑誌見開き / 2-page magazine spread

■ テーマについて：

児童労働とは子どもの教育の機会をなくしたり、子どもの精神的、身体的、また社会的成長に害を与える危険な労働を意味します。

国際条約にしたがった定義とでは、15歳未満の子ども達（途上国は14歳未満）、つまり義務教育を受けるべき年齢の子ども達の労働と、18歳未満の危険有害労働を行っている子ども達が児童労働者となります。

農場や工場で働かされる子ども、借金のかたに売られる子ども、買春させられる子ども、戦争に兵士としてかりだされる子どもなど、世界には2億1500万人の、児童労働者と呼ばれる子ども達が存在します（2008年、国際労働機関推計）。

■ 目的

児童労働は、すべての生活者にとって関係のある問題です。チョコレート、コーヒー、パソコン、衣服など、私たちは知らないうちに児童労働で作られたものを使っているかもしれないのです。

児童労働問題の存在に気づかせ、撤廃への賛同の証しとして、署名を送ってくれるよう促してください。（集まった署名は、各国の外務省、文部科学省、厚生労働省などに届けて直接要請を行います）

■ ターゲット

全ての生活者。

<選考結果発表>

選考の結果は、審査当日に発表会（セレブレーションパーティ）を開催し、その席でファイナリストの発表を行いました。セレブレーションパーティ会場には、全エントリー作品が掲示され、発表の際に審査員から講評をいただきました。発表会にはエントリーチーム全員を招待し、ACC理事、国際部会委員及び関係者も出席しました。

<カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル 日本代表>

株式会社東映エージェンシー



<協力と協賛>

ゲッティ イメージズ ジャパン株式会社 **gettyimages®**

カンヌライオンズ公式イメージプロバイダー会社であるゲッティ イメージズの日本法人より本コンペティション・プリント部門へ素材の提供をいただいております。

株式会社アサツー ディ・ケイ

株式会社オムニバス・ジャパン

株式会社東北新社

株式会社博報堂

<カンヌライオンズ ヤング クリエイティブ コンペティションとは>

1995年から始まったカンヌライオンズのスペシャルイベントとして注目される催しです。世界30ヶ国以上の国別代表チーム(28歳以下のクリエイター)が出場し、現地で出題された同一課題に対して規定時間以内に広告を提出し、競うクリエイティブコンペティションです。1位~3位のチームが現地の表彰式で顕彰されます。

<ご参考：これまでの国内選考会の課題と優勝者(敬称略)>

【フィルム部門】

年	課題	優勝者
2006	フカひれの需要を抑制する	(株)電通 佐藤玲彦、大島美緒
2007	もっと歩こう!	(株)電通 北田有一、(株)葵プロモーション 菊池浩史
2008	もっと読書を!	オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン(株) 杉山元規、長部洋平
2009	ネットいじめ	(株)アサツー ディ・ケイ 武井哲史、(株)東北新社 高島夏来
2010	フード マイル	(株)博報堂 小笠原 健、徳野 佑樹
2011	水の危機	(株)ダンスノットアクト 上野 恵、(株)読売広告社 山澤 雅之

【プリント部門】

年	課題	優勝者
2003	遺伝子組換え食品	(株)電通 山田慶太 佐藤 拓
2004	ユニバーサルデザイン	(株)電通 藤井亮、張間純一
2005	小児肥満問題	(株)電通 後藤一臣 神原秀夫
2006	少年犯罪	(株)博報堂 下東史明 宮脇亮
2007	動物園で虐待されている動物の救護	(株)アサツー ディ・ケイ 青柳有美子、砥川直大
2008	少年兵の禁止	(株)ライトパブリシテイ 大野瑞生、武田正文
2009	アニマルセラピー	(株)電通 工藤真穂 土居美由希
2010	存在しない子どもたち	(株)電通 大山 徹、(株)電通テック 伊藤 真也
2011	ドメスティックバイオレンス	(株)電通 高橋 優、三國 菜恵

以上